



私のひとりごと

「最後まで当たり年」

その日は見学会当日。次男と一緒に一台の車で会場へと急ぐ。少し遅れて、家内が自分の車で来るはずであった。会場近くに差しかかった所で、長男から電話が入る。「お母んが事故を起こした。重体や！先に現場に行くで！」と電話が切れた。一瞬信じられなかったが、家内からも電話が入り、「ゴッホッ、ゴッホッ、事故起こした～ウ～苦しい…ゴッホッ、ゴッホッ」と、息も絶え絶えに電話は切れた。やばい！かなり重症と思われるが、生きている事だけは確かな様子。折り返し長男に電話をし、内容を確認すると交差点で事故を起こしたらしい…。交差点と聞いて不安が高まる。交差点ならば相手がいると思われるが、相手方は果たして？…と不安が倍増する。



※写真はイメージです。

現場近くになると、大型の乗用車が交差点を塞いでいる。「やばい！」と不安はますます募り、近づけば滋賀県ナンバーの高級車で不安は最高潮に！。家内の車はフロント部分が大きくえぐれ、すでに交差点から撤去され救急車や警察も来ている。ただ、相手方と思われる男性は無事な様子で、私が夫だと解ると「すみません！大変な事をしてしまいました。」と、震える体で平謝りである。どうやら相手方のほうが悪い様子である。冷静さを取り戻した私は、すでに救急車に収容されている家内が気になり、急いで駆け寄った。全身血まみれだと覚悟はしたが、アレッ？見た目は普通である。救急隊員が言うには、「シートベルトで圧迫された部分を痛がってます。」との事。事故処理は長男に任せ、搬送先の病院へ急ぐ。処置室から出てきた家内は、痛がってはいるものの、かすり傷ひとつ無く元気な様子である。「あの息も絶え絶えに苦しんでいたのは何だったのか？」と聞くと、エアバッグが開き、煙（ガス？）が車内に充満し、息がしづらかったらしい…。それで「ウ～苦しい…ゴッホッ、ゴッホッ」の謎は解け、緊張の連続から解放され急に安堵感を得たせいか、妙に笑いが出てきた。

この話はこれでオチかと思われたが、さらなるオチが待っていた。念の為、細部に渡りレントゲンを撮り、先生の説明を受けた時の事。「腰部と胸部の打撲以外、骨折や出血は見当たりません。ところが、ここ！」と、お腹のあたりの白い影を指差すので、私も家内も思わず身を乗り出す。「この白い部分は脂肪ですから、少し落とされた方が良いですよ。」エッ！この状況で言うか？と思ったが、家内はかなりムツとした様子で、私はズッコケて椅子からズリ落ちるのをふみ留まった。不幸中の幸いか、体に重大な異常も見当たらずホッとしたのである。後日、たまたま事故現場を通り掛かった知人の話によると、とても無事だとは思われない状況であつたらしい。

今年にはこれでオチかと思われたが、さらなるオチが待っていた。念の為、細部に渡りレントゲンを撮り、先生の説明を受けた時の事。「腰部と胸部の打撲以外、骨折や出血は見当たりません。ところが、ここ！」と、お腹のあたりの白い影を指差すので、私も家内も思わず身を乗り出す。「この白い部分は脂肪ですから、少し落とされた方が良いですよ。」エッ！この状況で言うか？と思ったが、家内はかなりムツとした様子で、私はズッコケて椅子からズリ落ちるのをふみ留まった。不幸中の幸いか、体に重大な異常も見当たらずホッとしたのである。後日、たまたま事故現場を通り掛かった知人の話によると、とても無事だとは思われない状況であつたらしい。

今年には正月から食中毒で当たり、最後の締めも痛い当たり年になった訳だが、なにはともあれ、重篤な事態を回避させてお連れ頂いた神様に、心より感謝する年になった。

ではまた来年もお会いしましょう。
今年も最後まで読んでいただき…、

あっぱれ
ございました!!

